

# 図画工作科学習指導案

指導者 南区六つ川台小学校 磯崎裕人

1. 日時・場所 令和4年6月30日(木)第3校時 場所 教室
2. 学年・組 第5学年3組 1名、第6学年3組 1名、第6学年4組 1名 計3名
3. 「学習の方向性」から題材へ

造形的な見方・考え方を働かせ、資質・能力を育む「学習の方向性」

○感じたことや想像したことを、見たこと、伝えたいことから表したいことを見付け、主題を効果的に表す。

○活動したことや表現したもののよさや美しさを感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を深める。

【A 表現(1)イ(2)イ】【B 鑑賞(1)ア】〔共通事項〕

## 子どもたちの姿

「立体作品」を中心とし、交流学习で行っている。また、「絵」の交流学习には、なかなか前向きに行けない姿があった。これまでは具体的なものこをモチーフとして描くことが多かった。これまでの図画工作科の学習の中では、絵の具を用いた活動では「墨で描いて楽しかったよ!」や個別の学習での粘土では「これ、ゴジラ。」「これは、肉の塊。」など、用具や材料に自ら親しみ、表現することの楽しさを味っている姿が見られた。その一方で、「やだ。」「まだ、やるの。」など、マイナス姿があった。

日常では、「先生、あのね。」「こんな絵、自由帳に書いたから見て。」「粘土してもいいですか。」「畑、行って水やり、草取りしてきます!」ついでに、虫捕りもいいですか。」など、自分の好きなことをして時間を過ごせる穏やかさと、一方で、感情的になり大きな声をあげたり、手を出してしまったりする姿がある。

算数の学習では、単純な計算を行うことができる一方で、「もうつかれた」や「先生、もうこれでいい?」など粘り強さに欠けてしまう姿もある。また、国語の学習では、「本読むのやだ。図鑑は好き。」「(興味のある科学読み物や図鑑)これ、見てていいですか。」など、言葉や文学作品に対する関心がやすい。

図工の場面では、自身が見つけたトンボをモチーフに、嬉々として進んで、絵を描く姿も見られる。また、立体作品を夢中で作り、「これ、できたよ!」とにこにこした顔で教師に見せに来てくれている。

高学年は、在籍が全体の5分の1と割合が少ない。また、静かに過ごせる空き教室を好み、3人で和気あいあいと生活している。

## 教師の願い

○造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、親しみのある作品などから自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと〔共通事項〕

絵に表す活動を通して、感じたこと、想像したことから、表したいことを見付けることや、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどを感じ、用途を考えながら、オノマトペから感じた自分のイメージをどのように表すか考えること。

本題材の魅力に触れ、題材を通して、自分のイメージをもったり広げたり、最後まで表現する姿になるようにしていきたい。

## 題材名

『言葉から想像を広げて』  
～言葉のイメージを 絵に描こう～ A表現(2)イ

## 題材目標

- 『もこもこ』著:谷川俊太郎を読んで、想像したことを絵に表すときの感覚や行為を通して、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを理解するようにするとともに、表現方法に応じて水彩絵の具を活用して、これまでの経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法を組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すようにする。
- オノマトペや物語から感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付け、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じなどを考えながら、どのように主題を表すかについて考えるようにする。  
自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の意見や感じ方を広げるようにする。  
動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを基に、自分のイメージをもてるようにする。
- 主体的にオノマトペや物語を読んで想像したことを絵に表す学習活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養うようにする。

## 題材について

本題材は、物語やオノマトペの言葉から感じ取ったり想像したりしたことや、自分の思いが伝わるように、画面の構成や表し方を工夫して絵に表す力を育てる。

夏休み時期になると、読書感想画などの「読書活動」と関連して、絵で表すことがある。発達の段階に応じた指導や支援を必要とする児童においては、その活動を苦手とする場面が少なくない。一方で、学習活動を行う場面に生じる困難さはあるが、個々の児童の困難さに応じた指導内容や指導方法を工夫することで、教科書の単元をより楽しめるのではないかと考えた。また、教科書に記載のある「アートカード」を本題材と関連付けることにより、一人一人の児童の障害の状態や発達の段階に応じた指導や支援の実現につながると考えた。

### ○「学習の方向性」を基に育成を目指す資質・能力と本題材の関連

・自分の表したいことに向かって効果的につくり、つくりかえ、つくり続けようとする。(関心・意欲・態度)

個別支援級における「日常や遊び」での言葉遊びや、カード遊びによる言語習得や「図画工作科」での「アートカード」を活用した遊びや「タブレット機器の活用」、「読書活動」での図書館司書との連携などを通して、総合的な関連を図り、体験的な学習を広げ、主体的に活動を楽しめる態度を育てるようにしたい。

### ○本題材における〔共通事項〕についてのとらえ

- ・自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。
- ・形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

#### 4. テーマに迫るために

研究主題	感性豊かに生きる力をはぐくむ図画工作科学習の創造 ～ 感じる つくる 考える 子どもの姿を求めて ～
部会テーマ	効果的に つくることを楽しむ子どもの姿を目指して

##### ① 出あいの工夫

- ・どの学年にもある教科書の単元を選択することで、安心して学習活動を楽しめるようにする。
- ・本単元にすぐに入るのではなく、「アートカード」で活動を楽しみ、また、「読書活動」として図書館司書による読み聞かせの時間を設定することで支援が必要な児童でも活動を楽しめるようにする。
- ・物語を読んで、絵に表すことに困り感を感じやすい児童が本学級には多い。そのため、実態のないもののイメージをすること、自分のイメージをもつことが難しい場合があるため、絵本や身近なオノマトペから自分のイメージをもつことへのきっかけとなるようにする。

##### ② 場の設定の工夫

- ・教室移動することで、緊張感が強くなりやすかったり、3階へ移動を嫌がり図工室へ行くことを拒んだりすることが多いために、安心感のある空き教室でのびのびと活動できるようにする。
- ・安心して活動に参加できるように、少人数で、また、活動の材料を共有しやすい大きめの机を活用するようにする。
- ・活動の中で、気持ちの切り替えがしやすいように、画用紙の大きさを小さくし、複数(今回は3枚程度)を用意することで、自分のペースで絵に表すことを楽しんだり、友達の作品を鑑賞したりしやすいようにする。
- ・絵を運んだり、向きを変えたり、操作したりしやすいように、画用紙は板目紙を裁断したもの(4分の1サイズ)を用意する。また、水のつけすぎで、破れてしまうことがないようにするためにも役立てるようにする。
- ・色の鮮やかさなどをより楽しめるように、蛍光色を用意したり、発色の良く透明感があるアクリル絵の具を使用したりして活動できるようにする。
- ・作業場所を意図的に向き合わせることで、自然とお互いの作品の良さを見付けるきっかけとなったり、イメージのきっかけを会話からヒントをもらったりすることがしやすいようにする。

##### ③ 共感的支援の工夫

- ・少人数での学習の良さをいかし、児童一人一人と対話を通して、「どうして、〇〇したの?」—「だってね、～なんだ。」と理由を児童が語れる雰囲気作りを心掛ける。
- ・経験したことを想起できるように、時には過去に見たものや身近なものを例に挙げながら、励まや共に考えることを意識して声をかける。
- ・一人一人に声をかけ、活動の見通しを確認したり、示したりすることで最後まで活動を楽しめるように支援する。
- ・児童が互いの作品から感じたことを対話できるように、時間にゆとりをもてるような工夫をする。

##### ④ 小中一貫の視点

- ・「アートカード」を活用して芸術作品に親しむことや、自分のイメージを絵に表すことを通して、中学校でのA表現(1)ア(2)アの絵や彫刻などに表現することにつながりをもたせられるようにする。また、この経験を基にして、自分のイメージをもつことへの苦手意識を少しでも減らせるように、また、自分でイメージできた達成感を味わわせることができるようにする。

5. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>『もこもこも』著：谷川俊太郎を読んでもらい、想像したことを絵に表すときの感覚や行為を通して、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを理解している。</li> <li>表現方法に応じて水彩絵の具を活用して、これまでの経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法を組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オノマトペや物語から感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付け、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じなどを考えながら、どのように主題を表すかについて考えている。</li> <li>動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを基に、自分のイメージを広げている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的にオノマトペや物語を読んで想像したことを絵に表す学習活動に最後まで取り組もうとしている。</li> </ul>

6. 指導と評価の計画 4時間

ア…アートカードで遊ぼう。マッチング・ゲーム、グループ分け当てゲーム(1時間)

イ…『もこもこも』読み聞かせ、活動の見通しをもつ、絵に表す(2時間)

ウ…完成した作品を見合う(1時間)

子どもの学習活動	評価規準 【評価方法】	教師の指導	知・技	思・判・表	主体的
<p>アートカードで遊ぼう。マッチング・ゲーム、グループ分け当てゲーム</p> <p>○アートカードで遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これ、見たことある</li> <li>・これ、絵本じゃん</li> <li>・これ、すきだな</li> <li>・このゲーム面白いね</li> </ul>		<p>○身近なものから、連想する物など、段階を意図的に踏んで示す。</p>			
<p>『もこもこも』を聞いて言葉のイメージを想像しよう</p> <p>○図書館司書による『もこもこも』の読み聞かせ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おもしろい</li> <li>・これ、だんごじゃん</li> <li>・あははは</li> </ul> <p>○ロイロ・ノートで絵に表そう</p> <p>「ちくちく」「ふわふわ」「ゴロゴロ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・へー、なるほどね</li> <li>・にているね</li> <li>・ちがっても、いいね</li> </ul>	<p>知・技 【行動観察・発言】</p> <p>主体的 【行動観察、ロイロ・ノート】</p>	<p>○子どもたちの好きな図書館司書との関わりに寄り、興味・関心を高めることにつなげる。</p> <p>○子どもたちの好きなタブレット機器を導入時に活用することで、活動に意欲的に参加出る雰囲気をつくる。</p>			

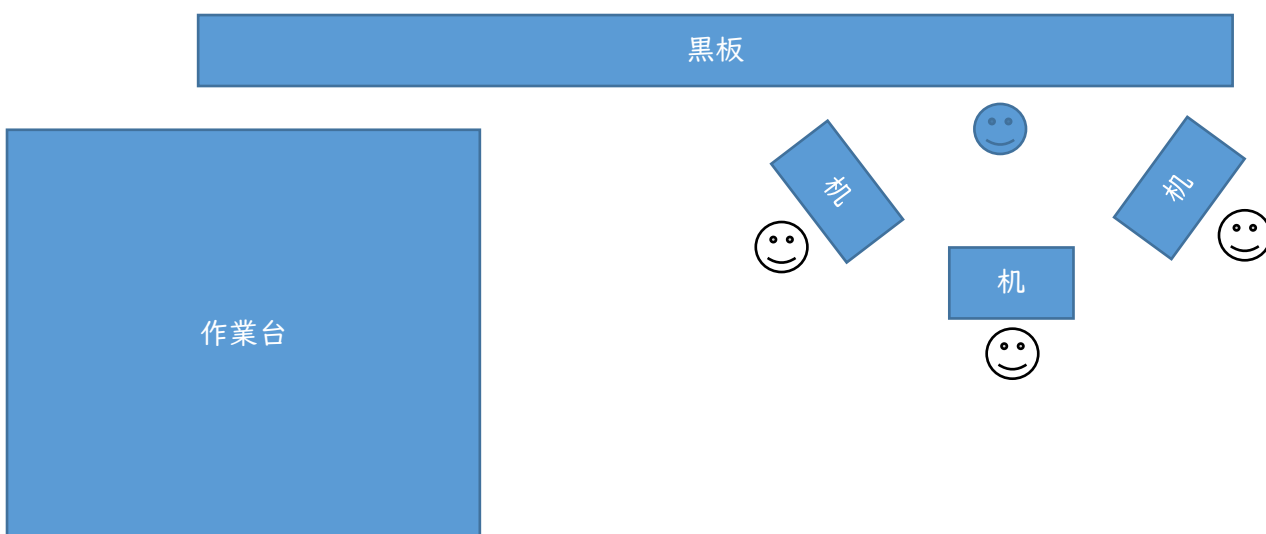
3	<p style="text-align: center;">『言葉から想像を広げて』言葉のイメージを 絵に描こう</p> <p>○知っているオノマトペを発表しよう ・カチカチ ・ドカーン ・バンバン</p> <p>○自分で選んだ言葉から、イメージしたことを絵にかこう ・これはね、岩なんだ。 ・破裂しているみたいでしょ ・失敗したけど、これはこれでいいよね! ・楽しいね</p>	<p>思・判・表 【つくりつつあるもの、対話】</p> <p>知・技 【行動観察・発言】</p> <p>主体的 【行動観察】</p>	<p>○関心をもてるように、自分たちが知っているオノマトペを発表させる。</p> <p>○いくつあっても、面白いことを伝える。また、ここにはない表現でも、絵に表すと面白いことを伝える。</p>	
4	<p style="text-align: center;">みるみるタイム</p> <p>○完成した作品を見合う ・～のこれ、いいね! ・～のおもしろい。</p>		<p>○自然と見あえるように、掲示しておく。</p> <p>○できたことを称賛し、価値づける。</p>	

### 7. 準備

児 童：筆記用具、タブレット機器

教 師：板目紙、アクリル絵の具、水、ビー玉、お盆、ブラシ、筆、お皿、パレット、水差し、雑巾、新聞紙、綿棒、スポンジ

### 8. 場の設定



## 9. 研究内容についてのふりかえり

### 1 「学習の方向性」を基に育成を目指す資質・能力を明確にしたカリキュラム・マネジメント

本題材の題材目標を達成するために評価規準の設定は、個別支援級の児童にとっても適切であったと考える。目指す姿は高学年の指導事項に沿って行うが、手立てとしての「オノマトペ」や絵本の読み聞かせから、自分のイメージをもち、広げながら絵に表すことを楽しんでいる姿があったからである。本単元を通して、児童一人一人の新しい発見があった。アートカードを友だちとでも、楽しめる姿や芸術作品の鑑賞を通して自分の気づきを交流できるよさ、これまで経験してきた様々な表現の仕方を楽しむ姿を見ることができ、担任として嬉しく思った。

### 2 「主体的で・対話的で深い学び」の視点からの授業改善における子どもの変容

部会テーマの「効果的に つくることを楽しむ子どもの姿を目指して」では、個別支援級の児童だからこそ、視覚的に分かりやすい絵に表すことで、形や動き+色の鮮やかさ、濃淡=組み合わせを楽しんだり、「なんで？」この色、形？と教師が尋ねると、自分のイメージを言葉で、「だってね、ザラザラなんだ」と理由を語れたれる姿があり、一目では分からない、その絵に表されたイメージの効果的な表現があった。

#### ○成果

##### 子どもの姿

- ・本単元を最後まで、楽しむ姿があった。
- ・自分のイメージをもつことができ、表したいことに合わせて表し方を工夫している姿があった。

##### 手立て

- ・アートカードやオノマトペなど関連させて、授業展開をすることによって、児童一人一人が楽しみ、かつ安心して学習に最後まで参加することができた。

#### ●課題

##### 子どもの姿

- ・抽象的な言葉からは、いまの段階では絵に表そうとすることに難しさがあった。

##### 手立て

- ・主体的に活動ができたが、他の単元でも継続させたり、関連付けさせたりすることに困難さを感じた。